

病棟別担当による連携の効果

医療法人社団誠馨会 セコメディック病院

リハビリテーション部 吉田智貴

【はじめに】今年度より他職種との連携強化を目的に急性期病棟で病棟別担当制を行い、その効果について報告する。

【方法】効果の指標として、各病棟の月平均リハビリ依頼箋数・依頼箋率（依頼箋数/各病棟入院者数）、平成26年10月から平成27年3月と平成27年4月から9月で比較した。

【結果】平成26年10月から平成27年3月までの依頼箋数はA病棟33枚・B病棟22.2枚・C病棟27.3枚、依頼箋率A病棟33.7%・B病棟24.7%・C病棟40.0%であった。平成27年4月から9月は依頼箋数A病棟32枚・B病棟33.2枚・C病棟28.5枚、依頼箋率A病棟33.1%・B病棟33.0%・C病棟45.8%であった。介入前後を比較し、B病棟では依頼箋数の1枚増加（依頼箋率8.3%増加）、C病棟でも依頼箋数1.2枚増加（依頼箋率5.8%増加）が見られた。

【考察】今年度、病棟別担当制を置くことで、職務の専門化、部門化、管理範囲の適正化などの問題点を解決できた事で、他職種との連携強化が図れたと考える。